

九州大学教育学部 4 年(活動当時)

樋口早紀 (令和 8 年卒)

就職先:トヨタ自動車株式会社

タイトル:英国の日本語補習校と現地小学校への視察

2025 年の12月に英国の二つの日本語補習校、および現地の小学校を視察させていただきました。私は複数の言語・文化環境で育つ子どもの教育に関心があり、本渡航では①英国の多文化な教育現場を直接観察し日本との違いを見つけること、②日本にルーツを持つ子どもが日英の教育環境の間でどのように言語や価値観を使い分けているのかを明らかにすることの二つを目的としました。

多文化環境の中で学ぶ英国の小学校

まず、リーズ市内にある Shakespeare Primary School の year1・2 のクラスを一日見学させていただきました。この小学校には黒人やインド系などの移民家庭の子どもが多く在籍しており、家では違う言語を話す、英語を第一言語としない児童が大半を占めています。授業では 1 クラス 26 名に対し、担任のほか1~3名の TA が必要に応じて入り、進度別グループに分かれて学習するなど手厚い支援体制が整っていました。一方で掃除の時間は設けられておらず、給食も担任の業務範囲外で別室で行われるなど、日本との学校運営の違いも見られました。5~7歳の児童は私にも元気に挨拶をし、「Ms! Can you help me? (先生!これ教えて)」と積極的に関わってくれ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

英国の日本語補習校で学ぶ子どもたち

さらにダービーシャー日本人補習校、ヨークシャー・ハンバーサイド日本語補習校の二校を訪問しました。両校には、数年で帰国予定の駐在家庭の子どもから英国で永住予定の国際児まで、多様な背景を持つ子どもが毎週土曜日に日本の教育を受けに来ていました。

補習校では、日英の学校環境や価値観の違いについて生の声を聞くことができました。興味深かったのは、日英のアイデンティティで葛藤しているという声は意外に少なく、イギリスも日本もどちらも自分であり、両方大切だという肯定的な自己認識が多く聞かれたことでした。一方で、英国生活が長くなるにつれ、言動にイギリスらしさが強く表れるようになり、週一回の学習では日本での高等教育進学に不安を抱える家庭も多くありました。将来の日本を担う貴重な日英バイリンガル児の多くが、日本に戻らない可能性があるという構造的な課題も感じました。

授業終了後には、先生や保護者の方と食事をご一緒する機会をいただき、英国で日本人として生活することや多文化な家族の生活について、笑いを交えながら多くのお話を伺いました。英国という地に日本人コミュニティが根付いている様子を実感できたことは、非常に印象深い経験でした。

本活動を通して、英国で育つ子どもたちの姿を自分の目で確認し、英国と日本の教育実践の違い

いや日本にルーツを持つ子ども・保護者の抱える課題について理解を深めることができました。本渡航では、日本語補習校の保護者・児童にアンケートやインタビュー調査を実施し、その成果を活かして卒業論文を実りある形で完成させることができました。

4月からは社会人として、教育とは異なる分野で新たな一歩を踏み出すこととなりますが、本渡航をはじめ教育学部で得た学びを活かし、世界で活躍できる人材となれるよう精進してまいります。本渡航の実施にあたり、支援をいただいた教育学部同窓会の皆様に心より感謝申し上げます。



<ダービーシャー日本語補習校の児童・生徒が作った掲示板>